



MTP2026の進捗

✓ EVの新規顧客開拓と電動化案件の受注進捗は予定どおり

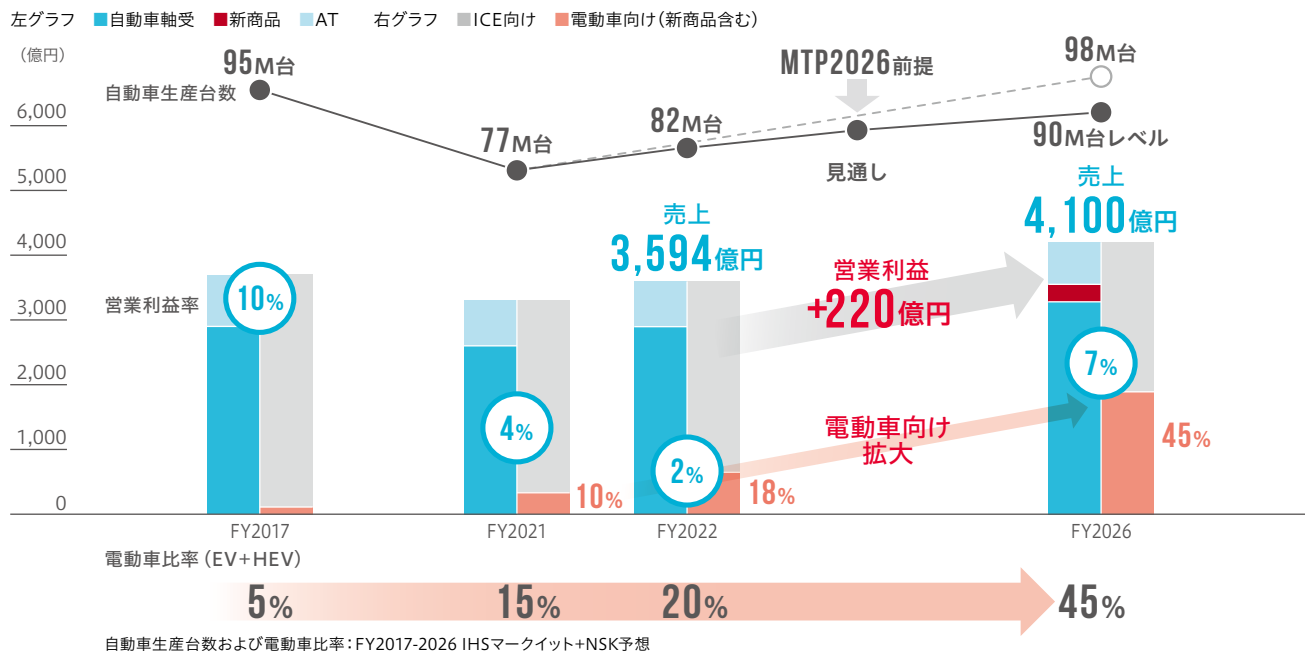
✓ MTP2026生産台数前提を見直し、生産再編を加速

✓ ステアリング事業はJISとのJVを設立

FY2026目標 ■ 売上 4,100億円 / 営業利益率 7% ※ ステアリング事業を除く

自動車事業は、FY2026に売上高4,100億円、営業利益率7%の達成が目標です（自動車軸受+AT）。MTP2026の前提としていた自動車生産台数は98万台から90万台へ引き下げましたが、当初の利益率目標をキープすべく、電動車向け新規案件の高収益での受注を進めています。さらに、既存製品のビジネスの収益性改善も進めています。例えば、今後物量の減少が見込まれる製品に対しては生産体制の再編を進め、不採算品の撤退も検討していきます。ステアリング事業はJIS（ジャパン・インダストリアル・ソリューションズ㈱）とのJVを2023年8月1日に設立しました。

自動車事業売上成長イメージ ※ステアリング事業を除く



FY2026目標達成に向けて

✓ 売上拡大

- 電動車 新規拡販計画900億円に対し、技術の差別化などにより、**8割受注済**
 - ・eAxle用軸受の供給体制確立
 - ・電食対策軸受の開発品投入
 - ・中国R&Dの増強
- 新商品の受注推進
 - ・新商品売上目標300億円に対し**7割受注**
 - ・電動油圧ブレーキシステム用ボールねじ **1,000万本受注等**

✓ 収益改善

- 新規案件の**高収益受注**
 - ・電動車案件の付加価値の売価反映
- 既存案件の収益改善
 - ・ICE向け製品の生産集約と設備/スペースの産機/新製品向けへの活用
 - ・赤字製品の撤退と**インフレの売価転嫁**

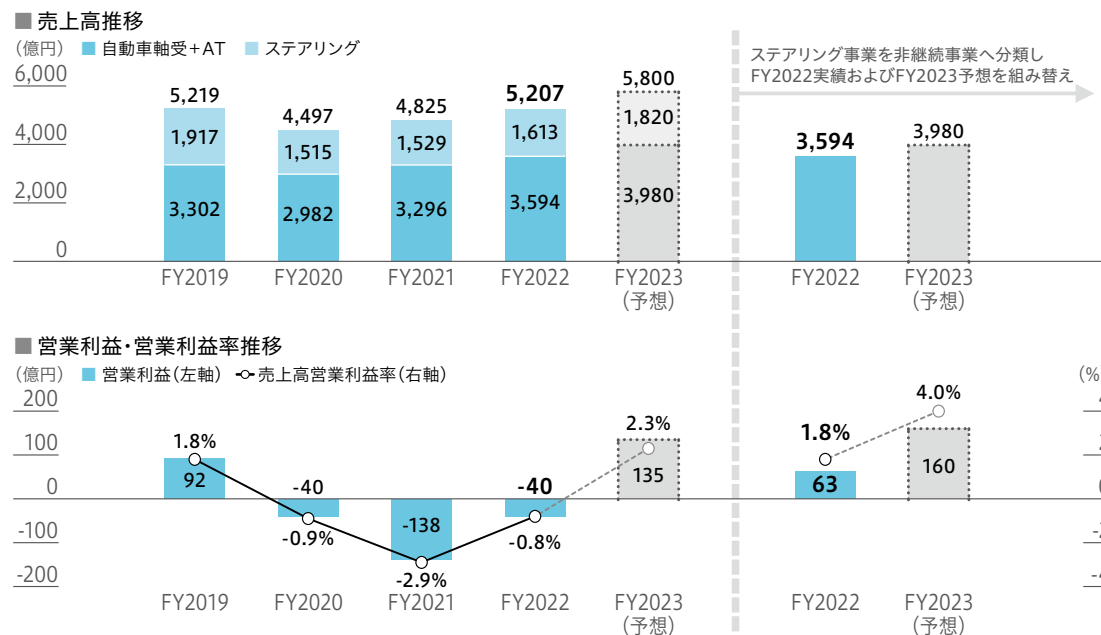
FY2022の振り返りと今後の見通し

半導体不足や部品供給停滞で減産が拡大した前期からの回復が想定より遅れたものの、売価転嫁の推進と為替影響もあり、当連結累計期間は対前期比で増収となりました。

地域別では、日本は当期前半に中国からの部品調達が滞るなど自動車の生産調整が続いた影響を受けて減収となりました。米州および欧州では前期に半導体等部材の供給不足による生産制約の影響を受けて落ち込んだ反動により増収となりました。中国はゼロコロナ政策に伴う厳格な活動規制により生産が停滞した影響や規制解除後の販売が伸び悩み減収となりました。

この結果、自動車事業の売上高は5,207億11百万円(前期比+7.9%)、営業損失は39億51百万円(前期は137億62百万円の損失)となりました。

当事業では、自動車の電動化に対し、低トルク・高速回転・軽量化といった当社グループの技術力を活かすことで競争力を強化し、さらには電動油圧ブレーキシステム用ボールねじなど将来に向けた新商品の拡大を図ることで事業の成長を目指していきます。また、ステアリング事業は新会社の下、収益性改善に向けたさらなる構造改革の推進と戦略的パートナーとのアライアンスの検討を進めます。



TOPICS

電気自動車(EV)向けeAxleの機能向上に貢献するNSK製品

NSKは、マーケットのニーズに応じた電食防止、高速回転対応や低フリクション製品のラインナップを拡充し、eAxleの機能向上に貢献します。



ステアリング事業のJV設立

- ✓ ティッセンクルップ社との合併会社設立の協議を中止し、JISと合併契約を締結
- ✓ 当社子会社であるNSKステアリング&コントロール株式会社を2023年8月1日に持分法適用会社へ移行(株式保有割合: NSK 49.9%、JIS 50.1%)

本取引の狙い

自動車部品を含む複数の日本の製造業において経営改善の経験と知見を持つJISに経営の主導権を委ねることで、ステアリング事業の構造改革を進める

- 収益性改善に向けたさらなる構造改革の推進
- スタンド・アローン化の推進
- ストラテジック・パートナーとのアライアンスの検討
- モニタリング体制の強化